

ごみの一步手前を考える



No.8

片づけと 2R

～捨てないことから始めよう！～

巻頭インタビュー

残される「もの」をデザインすること

加藤 尚武

特集 1 ストックごみの現状とその要因

ストックごみの現状と課題：山川 肇・渡辺 浩平

ストックごみにしないために：堀 孝弘

特集 2 さあ、片づけに困った!ときの虎の巻

捨てるから始めない生前整理収納法：戸田 里江

時間を暮らしに保存する：大関 はるか

遺品整理に立ち会う:株式会社リリーフ

(株) リリーフ取締役
おかたづけ事業部長あか ぞわ
赤澤とも のり
知宣[インタビュアー・文責]
(株) エックス都市研究所さい とう
齋藤とも のり
友宣

リリーフ社屋 写真右奥が倉庫・選別場

(株) リリーフは、会社のある西宮市を含む近畿から、沖縄・関東・中部・東北地方まで遺品整理サービスを行う会社です。遺品整理と一口にいても、その内容は多岐にわたります。今回、遺品整理の実際や、不要になったものがどう活用、処理されているかを知るために、同社の赤澤知宣さん(写真1)からお話をお伺いしました。

① 遺品整理はお話を聞くことから

遺品整理は言葉のとおり、故人が遺された品を整理することからはじまります。故人が遺されたものの中には、日常の生活で使っていたもの、冷蔵庫に残された食品、形見などの大切なものまで多種多様なものが含まれます。当然のことですが、一概にすべて捨てるわけではありません。遺品整理の現場ごとに、遺品として大切にするもの



写真1 お話を伺った赤澤知宣氏

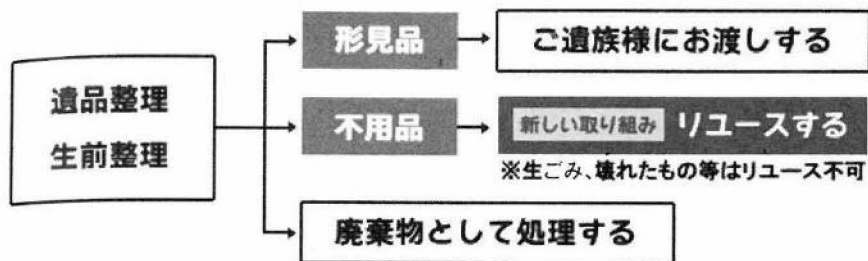


図1 リリーの遺品整理・生前整理の考え方

と、不用品として処分するものは、異なります。その上で、遺族に遺すものと、やむなく手放すものとに分けていきます(図1)。そのため、まずは遺族の方からお話を聞くことから始めていきます。

遺族の方も、遠方に住まわれたりしていると、どこに何があるかわからない状況であることも多く、見積らさせていただくために、遺族の方に一緒に立ち会っていただきながら、全体としての物量や、遺族の方が引き取られるもの、遺族の方が不用かつリユースできるもの、リユースも難しく廃棄するものを確認しています。

亡くなられた方のお住まいが持ち家などの場合、すぐに退出しなければな

らないわけでもなく、また長寿命化に伴って遺族も高齢化していることから、見積りを行い実際の業務に至るまでに1年以上かかることもあります。遺族の方々に納得いただきながら勧めることが大切だと考えているため、遺族の方にとって、よりよい遺品整理のタイミングがくるのをお待ちし、業務を進めています。

とはいえ、見積りのご依頼から早い場合はおおむね1週間程度で実施することも可能です(写真2)。

② 意外に多いリユースされるもの

亡くなられた方が身の回りのものを大切に使われていることは多く、遺品整理の結果、リユース品として、捨て



写真2 遺品整理の例(2LDK(5階))を4人・5時間で行ったもの) 左:整理前 右:整理後



写真3 リユース品の選別作業の様子

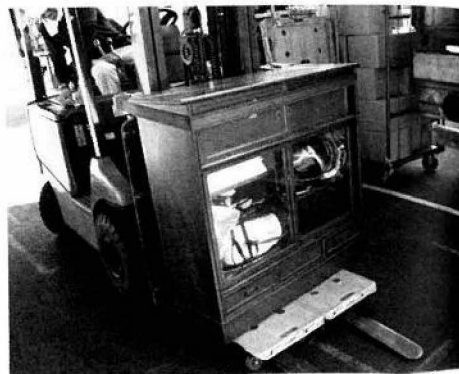


写真4 タンスの中にも商品を詰めて輸出

ずに流通するものの割合は想像以上に高いです。遺品整理されたものの状況を見ていきましょう。

まず、遺族の方が引き取られる「おもいで^{もい}の品」はだいたい1%くらいです。ダンボールで数箱程度であることがほとんどです。それ以外のものは遺族の方が不用とされるもので、資源物として分別するものは、全体の1~2割程度（かさベース、以下同じ）。これらは現地で分別を行い、専^{もっぱ}ら物^{もつ}は持ち帰っています。廃棄するものは全体の3~4割程度。そして最後にリユースできるものですが、この割合は多く全体の4~5割程度になります。

きれいに住まわれている方であれば、ほとんどリユースが可能な場合もあります。リユースできるものは当社に持ち帰り、選別し、丁寧に輸出用コンテナに詰め、輸出しています（写真3、4）。

タンスなどの家具の多くは東南アジア向けに輸出を行っていますし、その

他のものも商品になると判断したものは輸出に回しています。ただ、リユースとはいえ、選別や輸送のためのコストがかかるため、多くは無償引き取りです。家電は年式が新しければ、買い取り、日本国内でリユースしています。もちろん、古い家電は家電リサイクルに回しています。

輸出されたものは輸出先の国のいわゆる「リユースショップ」で販売されています。東南アジアなどの海外では、日本のリユース品の需要は高く、家具なども人気があります。日本のものは海外でも喜ばれています。

③ リユースの取り組みを進めることで、よりよい人生をサポートする

当社への依頼は、多くが遺族からの遺品整理の依頼ですが、生前整理の依頼も全体の1~2割くらいの件数、受けています。

生前整理は、御自身が亡くなられた

※ 専^{もっぱ}ら物^{もつ}：廃棄物処理法で「専ら再生利用の目的となる廃棄物」と定められる古紙、くず鉄、空きびん類、古繊維を指している（廃棄物・環境ワードブックより）

後に、遺族が困らないよう生きている間に身の回りのものを整理することで、遺族とは違い、御自身や家族が購入されたものを御自身で要・不要の判断を行うため、愛着があるものばかりで、なかなか手放しにくく、整理が進まないといった場面を多く目にします。また、皆様、捨てること自体に罪悪感があるのだと思います。

そこで手放されたものでもできる限りリユースにつなげていくことをご説明することで、「次に使ってもらえる人がいるなら」と前向きに整理を始めることができる方も多くいらっしゃると感じています。

身の回りのものを減らし身軽にすることで、その方の人生が豊かになる。その後押しを、リユースを通して行うことができていると思います。

④ 使われずに残っているもの

亡くなられた方のご自宅であり使われずに残っているものの多くは、そのままにしておいても腐らないものが多いといえるでしょう。

腐るものはどうしても臭いが出るので、みなさん定期的に捨てておられるのだと思いますが、腐らないものは不用になっても臭いが出るわけではなく、捨てるきっかけがないためか、そのまま宅内に残っていることが多いようです。本や服、布団をはじめ、洗剤などがその代表例で、厳密には腐るものですが、腐っても臭いがしないレトルト食品や缶詰なども宅内に保管されたまま残っています。レトルト食品



写真5 タンスの中も丹念に見ていく

の定期便などを契約されている方は、食べきれずに段ボールのまま、積み上がっているのを見かけたこともあります。また遺骨が残っていることもあります。原則、遺族の方に引き取っていただくようにしていますが、どうしても、引き取り手がないときは、お寺にお願いし供養していただいています。

また認知症の方が住まわれていたお宅では思わぬ場所から思わぬものが出てくることがあります。タンスの中身や服のポケットなども丹念に見ていくことが必要で（写真5）、気の抜けない作業になります。

話は少しそれますが、資源ごみや不燃ごみなど分別が必要なごみがたまっているケースが少なからずあり、分別できず捨てられずにいる方もおられるようです。

⑤ 捨てるものは適正処理で

私どもは、一般廃棄物収集運搬業の営業許可をもっていますが、これもグループ会社で許可がある西宮市と伊丹

市だけになります。遺品整理サービスとしては、近畿を中心に、沖縄・関東・中部・東北まで営業エリアを拡大しています。ごみでないものは自社で運搬しますが、西宮市以外では、原則、ごみは運べません。では、誰が運ぶのか。実は自治体によって指導内容はさまざまですので、それに従い対応しています。依頼主であるお客様が同乗すれば、私どものトラックで運搬できる地域もあれば、お客様から行政が行う「一時多量ごみ収集」に依頼してもらう場合、さらに、その地域の一般廃棄物収集業者に依頼することもあります。その地域の一般廃棄物収集業者が少なく、既に手一杯の場合もあり、この場合、こちらのスケジュールにあわせてもらうことができず、苦勞することもあります。

どのような方法であれ、排出方法が明確になっていれば対応ができるのですが、指導方針が定まっていない自治体も多く、排出方法が決まらないこともあり、なかなか大変です。自治体の

方々もお困りだと聞いているため、例えば引越ごみのガイドラインのように国である程度の枠組みを作っていただくと、排出方法が明確になり、良いのではないかと感じています。

6 遺品整理サービスを もっと知ってもらえるように

嬉しいことに、遺品整理についての社会的な認知度が高まっているためか、最近では遺品整理にはある程度のお金がかかるということが理解されてきました。

亡くなられた方のお宅に残されたものをくまなく確認する作業は手間がかかるものですが、この手間を惜しまないことで、見つかる大切な遺品もあります。御自身で整理をしたり、また屋外まで運び出しごみとして処理する場合に比べれば作業費用はかかりますが、先に述べたように、私たちは、遺品整理にリユースの取り組みを組み合わせることで、買い取りできるものは買い取り、また無償で引き取りできるものは引き取ることで、結果的にごみ排出量を減らしています(図2)。このことにより、直接のごみ処理費を圧縮するなど、全体としてお客様の負担を下げよう努力しています。また遺族の方が遠方に住まわれている場合、遺族の方だけで整理していくのは、移動時間や交通費を考えるととても大変だと思います。そういった方々に、ぜひ遺品整理サービスを知っていただきたいと思っています。

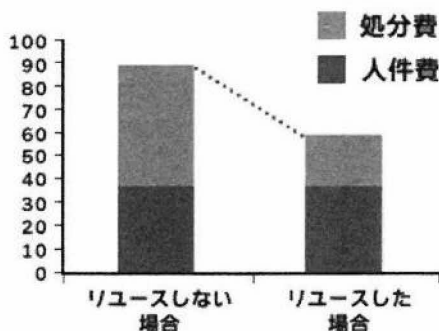


図2 リユースの有無によるコストの差

⑦ リユースルートを 遺品整理以外の方々にも

当社では、遺品整理のために構築した家財のリユースルートを活用し、家庭や事業所の不用品の受け付けもを行っています。

ショッピングモールなどで、不用品引き取りイベントも行っており（写真6）、多くの市民の方に来場いただき好評を得ています。

「大切にしていた人形を捨てるのが忍びなく、リユースされると聞いたので持ち込んだ」といった方もいらっしゃる、ものを大事にすること、簡単に捨ててしまわないことの大切さを改めて認識するとともに、不用品のリユースを進めたくても、個人ではなかなかそういった場がないことも実感しました。こういったイベントの開催が多くの方々から求められていると考えています。

現在は、一般家庭からは無料で、事業所からは引っ越しやレイアウト変更などに伴い不用になったデスクや書棚などを有料で引き取り、買い取りも行っています。国内だけでなく海外へのリユース品の流通経路をもつことで、これまで捨てられていたものをより長く活かすことができるようになったと考えています。

⑧ さいごに一身の回りの整理のコツ

私たちも生前整理をしましょうというお話を講演などで行っていますが、身の回りを整理し、不要なものを見極め、リユースしたり、ごみとして排出



写真6 不要品の引き取りイベント

したりすることは、なかなか大変な作業だと思います。それでも、不要なものを早めに整理することで、身が軽くなり、亡くなった後の遺族の負担も減ることは確かです。「いつか使うもの」は、結局使わないことが多いため、思いきって処分し、使えるものは次の使い手に早めに引き渡すことで、有効利用されます。また大切なものや、親族に遺しておきたいものは、それとわかるように保管したり、遺したい相手に早めに渡してしまうのも一つではないかと思います。

私たちも業務を通じて、多くの方が「ものを捨てること」に抵抗があることを肌で感じています。リユースの場がより増えるよう、業務を通じて皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。